

**令和6年度
八広はなみずき高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室
事業計画・報告書**

第9期日常生活圏域別地域包括ケア計画 目指すべき将来像

『世代を超えて支え合いつながる地域』

「令和4年度墨田区介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の結果では、物忘れ多いと感じている、うつ傾向にあると答えた方が他の圏域と比較して最も高い割合でした。また、地域住民や医療・介護・福祉等の関係者の参加により地域課題を把握する「地域ケア会議」からの意見では、「コロナ禍や疾病の影響により、高齢者が閉じこもりがちになり、筋力低下や外出の機会、多世代交流の機会が減少した」という意見や、「男性高齢者の集いの場が少ない」「医療・介護の連携により、必要なサービスや社会資源に関する情報を地域住民に分かりやすく伝える必要がある」といった様々な意見が挙がっています。

このような意見を基に、八広はなみずきでは目指すべき将来像の達成に向けて、3か年で3つの取り組みを行います。

第一に、地域住民や医療・介護・福祉等の専門職の協力者を増やす取り組みである「八広はなみずき応援団の育成」です。地域住民や専門職が八広はなみずきの活動や自主グループ等への協力を通して、生きがいや、やりがいを感じができるよう取り組みます。

第二に、高齢者が様々な活動に参加することでフレイルや認知症を予防し、地域における認知症の理解促進にも取り組む活動である「いきいき活動プロジェクト」を実施します。

第三に、医療と介護の多職種連携により、高齢者が要介護状態になっても多様な医療、介護サービスを必要に応じて利用でき、住み慣れた地域で安心して生活することができるよう「八広はなみずき地域を支える多職種連携の会」を行います。

この3つの取り組みを通して高齢者が地域で孤立せず役割と生きがいを持ち、多様な主体として様々な活動に参画し、地域住民や医療・介護・福祉等の関係者が相互に『世代を超えて支え合いつながる地域』の実現を目指します。

人口	高齢者人口	高齢化率	後期高齢者人口	高齢者人口に対する後期高齢者人口
26,196人	6,198人	23.7%	3,716人	60.0%

令和7年4月1日現在

<全センター・相談室共通業務>

1 総合相談支援

6年度の取組の視点	高齢者、家族、地域住民、関係機関からの様々な相談に対し、訪問、電話、面接等によりセンター・相談室で一体的に対応し、関係機関との連携により必要なサービスや制度につなぐ。		
結果	新規相談件数 759 件 (前年度 773 件)	継続相談件数 1910 件 (前年度 2,002 件)	
	センターの相談件数は前年度とほぼ同水準で推移した。相談内容では、権利擁護や虐待に関する相談が増加傾向にあった。相談者の状況に応じて、介護保険サービスの利用が適切か、あるいは地		

	域の介護予防自主グループ活動や、八広はなみずき内で実施される事業の対象となるかを慎重に判断し、相談者にとって最適なサービスの提案に努めた。
--	---

2 権利擁護

6 年度の取組の視点	○関係機関との連携により地域住民が安心して権利擁護や虐待に関する相談ができるよう対応する。 ・虐待防止ネットワークの構築のため、専門職向けの弁護士相談会を年 2 回開催する。 ・地域住民向けの権利擁護に関する講座を年 1 回開催する。	
結果	虐待防止ネットワーク（研修、講座等） 4 件 (延べ 50 名参加) (前年度 5 件 延べ 44 名参加)	権利擁護相談（虐待相談含む）件数 135 件（前年度 130 件）
<p>1. 虐待防止ネットワーク講座の実施</p> <p>虐待防止ネットワーク講座を通じて、介護支援専門員や介護サービス事業所の職員、施設職員等に対し、当センターが権利擁護相談（虐待相談を含む）の窓口であることを周知した。また、具体的な相談対応として、高齢者虐待に関する通報への対応や、成年後見制度における区長申立ての支援等を行った。</p> <p>2. 特殊詐欺被害防止に関する啓発活動</p> <p>高齢者を対象に、向島警察署の担当者による特殊詐欺の具体的事例の説明を通じて、詐欺被害防止に向けた意識の向上を図った。</p>		

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援

6 年度の取組の視点	○主任介護支援専門員の集いを年 4 回以上開催し、定期的な情報交換や介護支援専門員向け研修の企画・開催を支援する。 ○介護支援専門員のニーズや地域課題に基づく研修会や事例検討会等を年 2 回開催する。 ○関係機関との連携やネットワーク構築支援として、地域のケアマネジャー・医療関係者間を中心に定期的に勉強会などを開催する。	
結果	ケアマネジャー向け研修 8 回 (延べ 140 名参加) (前年度 9 回 延べ 180 名参加)	事例検討会 2 回 (前年度 3 回) むこうじま、ぶんか、八広はなみずき高齢者支援総合センターの協働により、「主任介護支援専門員の集い」を年 6 回開催し、延べ 65 名が参加した。 この集いでは、居宅介護支援事業所に所属する主任介護支援専門員との情報交換のほか、介護保険に関する勉強会や事例検討会、またケアマネジャーの業務範囲外に関する意見交換などを行った。こうした取り組みを通じて、介護支援専門員同士のネットワーク構築や、ケアマネジメントにおける実践力の向上に努めた。

4 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント

6 年度の取組の視点	○総合事業のケアプランに地域での取組や活動が反映され自立支援の促進につながる。 ○多職種との連携により自立支援を促すケアプランの検討を行いケアマネジメントの意識の変革を図る。	
結果	プラン件数（自己作成） 1,477 件（前年度 1,611 件）	プラン件数（委託） 1,325 件（前年度 1,223 件）
<p>1. 自作ケアプランの減少と委託ケアプランの増加 前年度と比較して、総合事業における自作ケアプランは 134 件減少した。一方で、居宅介護支援事業所のご理解とご協力により、委託ケアプランは 56 件增加了。</p> <p>2. 総合事業ケアプランへの地域活動の反映 介護保険サービスに加え、圏域内で実施されている介護予防の自主グループ活動や、八広はなみずき内で開催される地域活動も、総合事業のケアプランに積極的に反映した。</p> <p>3. 通所 C サービスの利用促進 通所 C サービスの利用促進を目的に、対象となる高齢者に対し積極的に利用を働きかけた。その結果、12 名と多くの高齢者がサービスの利用につながった。</p> <p>4. 介護予防ケアマネジメントの質の向上 地域ケア会議や多職種連携の会を開催し、多職種の意見を取り入れながら、自立支援に資するケアプランの検討を行った。また、関係機関との連携を強化することで、介護予防ケアマネジメントの質の向上を図った。</p>		

5 認知症支援

6 年度の取組の視点	○認知症の方が、尊厳と希望を持って住み慣れた地域で自分らしく暮らすことが出来るよう、関係機関との連携、地域の理解と協力のもと、当事者や家族の視点を重視した支援体制の強化を図る。 ○認知症家族会の開催（年 6 回） ○認知症サポーター養成講座の開催（年 10 回） ○オレンジカフェの開催支援（年 12 回） ○チームオレンジ活動支援（年 12 回）（R6 年～活動） ○あらゆる機会を通じてオレンジカフェ、家族会の周知を行い、認知症当事者や家族等に参加を促す。 ○認知症初期集中支援チームについて、関係機関、地域住民へ周知を行い、認知症の早期発見・対応に繋げができるよう、必要な方に認知症初期集中支援アセスメント訪問を実施する。	
結果	認知症サポーター数 開催数 14 回 参加者延べ 419 名（前年度 451 名）	家族介護者教室 5 回（前年度 6 回） 参加者延べ 30 名
<p>1. 認知症家族会の開催 認知症家族会を年間 5 回開催し、延べ 30 名が参加した。</p> <p>2. 認知症サポーター養成講座の実施 区民や金融機関、八広小学校（5 年生 72 名）、第三吾嬬小学校（6 年生 96 名）、日本橋高校（1 年生 224 名）を対象に、認知症サポーター養成講座を実施した。 日本橋高校では、認知症サポーター養成講座に加え、「福祉の仕事講座」も開催し、生徒が認知</p>		

	<p>症に関する正しい知識を深めるとともに、福祉の仕事への関心を高める機会となるよう働きかけた。</p> <p>3. 墨田区北部オレンジカフェすみだの開催 墨田区北部オレンジカフェすみだを年間 12 回開催し、延べ 264 名が参加した。</p> <p>4. 認定オレンジカフェの開催周知 墨田区オレンジカフェすみだ認定事業である「SOMPO カフェ東墨田」および「こんにゃく茶屋」の開催を周知し、認知症の当事者や家族の孤立防止、オレンジカフェ間の交流促進、情報交換の場として継続的な支援を行った。</p> <p>5. 地域コミュニティカフェの支援 地域にある「むつみの家」や「えがおの家」への継続支援を実施した。</p> <p>6. 墨田区チームオレンジ「みかたん」の立ち上げ オレンジカフェのボランティアや認知症当事者、関係機関と連携し、墨田区チームオレンジ「みかたん」を立ち上げた。登録者は 15 名（うち当事者 4 名）であった。次年度の活動に向けて、音楽部や手芸部の立ち上げに関する打ち合わせを重ね、メンバーが主体的に活動できる体制づくりを進めた。</p> <p>7. 認知症初期集中支援チーム員会議・アセスメント訪問の実施 認知症初期集中支援チーム員会議に 1 件のケースを提出し、支援の方向性を検討した。また、認知症アセスメント訪問を 3 件実施し、個別支援を行った。</p> <p>8. 専門職向け認知症普及啓発講座の開催 専門職を対象とした認知症普及啓発講座「認知症の方を在宅で支える」を 1 回開催し、21 名が参加した。講座を通じて、多職種によるチーム支援に関する理解を深める機会となった。</p>
--	--

6 地域ケア会議

6 年度の取組の視点	○多職種と連携し、自立支援・重度化防止等に資する観点から、地域ケア個別会議を年 5 回開催し、個別課題や地域課題を把握する。 ○個別ケースの検討を積み重ねていき、共通する地域課題から不足している社会資源を検討する地域ケア推進会議を年 1 回以上開催する。	
結果	地域ケア個別会議 4 回（6 事例） (前年度 5 回 6 事例)	地域ケア推進会議 6 回 (前年度 8 回)
<p>1. 地域ケア個別会議</p> <p>① 自立支援および重度化防止を目的として、4 回の会議を開催し、6 事例について検討を行った（延べ参加者数 34 名）。多職種からの意見を踏まえ、個別課題および地域課題の整理、目標設定、支援方針の策定、ケアプランの見直し、モニタリング時期の検討等を実施した。</p> <p>② 通所サービス C の卒業時期にあわせて地域ケア個別会議を開催し、本人（77 歳・女性・要支援 1）の目標であった施設ボランティア活動への参加につなげた。</p> <p>2. 地域ケア推進会議</p> <p>① 地域のケアマネジャーや通所サービス事業所を対象に、八広はなみずき圏域の介護予防自主グループや地域資源に関する情報を共有するため、地域ケア推進会議（自主グループ連絡会）を開催した。</p> <p>② 地域ケア個別会議で抽出された地域課題（孤食の問題や東墨田地域における通いの場の不</p>		

	<p>足等）への対応として、地域ケア推進会議を開催し、高齢者の共食を目的とした「さあにぎやかに食事をいただく会」の開催や、東墨田地域の特別養護老人ホーム内の地域交流スペースにおいて「ボッチャ交流会」を実施した。</p> <p>③ 令和6年度に開催した地域ケア個別会議（6事例）における個別課題・地域課題の振り返りと、次年度の取り組みに向けた検討を行う地域ケア推進会議を開催した。</p>
--	---

7 生活支援体制整備事業

6年度の取組の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者支援総合センター、高齢者みまもり相談室が収集した地域の情報をリアルタイムに共有できるように「まちの情報シート」を作成し、八広・東墨田地域の交流・通いの場を継続して把握する。 ○地域ケア会議で課題に挙がった地域の介護予防（自主グループ）情報を見える化し、地域の高齢者のニーズを把握する。 ○高齢者支援総合センター、高齢者みまもり相談室全体で地域課題を共有し、ニーズに応じて地域住民との協働による新たな集いの場の立ち上げを支援する。 												
結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">交流・通いの場 60件（前年度 49件）</td> <td style="padding: 5px;"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> <p>1. 地域情報の収集と提供</p> <p>地域住民やみまもり相談室から地域に関する情報を収集し、「まちの情報シート」や「社会資源情報シート」として一覧化し、随時更新を行っている。これらの情報はセンターおよび相談室職員間で共有・活用し、来所相談や訪問活動を通じて地域住民に提供した。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> <p>2. バリアフリーマップの作成と活用</p> <p>高齢者や若年層の障害者、東京都作業療法士会、一般社団法人 WheeLog 等と連携し、車いす利用者による街歩きを実施。その結果をもとに、多目的トイレ、車いす対応の飲食店、休憩場所などの情報をまとめたバリアフリーマップを作成し、地域の飲食店や関係施設へ配布した。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> <p>3. ボッチャ交流の継続支援</p> <p>介護予防センター、墨田区スポーツ推進委員、プラットフォーム八広などの協力を得て、「ボッチャを楽しむ会」や「ボッチャ交流会」を継続的に開催した。近隣の児童館、重症心身障害者通所施設、就労継続支援B型施設、特別養護老人ホーム、有料老人ホームなどと交流を図るとともに、他地域のボッチャチームとの連携を進め、「すみだでユニバーサルなボッチャ大会」には高齢者チーム2組が出場した。これらの活動を通じて、高齢者の活動範囲の拡大、役割意識の向上、生活意欲の増進につながった。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> <p>4. 孤食・低栄養リスクへの対応</p> <p>地域ケア推進会議にて、東京都作業療法士会や東京都栄養士会の協力を得ながら、高齢者の共食による交流を目的とした「さあにぎやかに食事をいただく会」を企画・開催した。近隣の就労継続支援B型施設の利用者も同様の課題を抱えていたため参加してもらい、全3回実施した。男性限定で延べ26名が参加し、共食を通じた地域交流の場を提供した。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> <p>5. ふれあい交流会の開催</p> <p>プラットフォーム八広の協力を得て、「ふれあい交流会」（健康麻雀、囲碁、将棋など）を月2回、計24回開催し、延べ338名が参加した。男女ともに参加者が増加し、健康麻雀用の卓を1台追加するなど、参加者のニーズに応じた対応を行った。</p> </td> </tr> </table>	交流・通いの場 60件（前年度 49件）		<p>1. 地域情報の収集と提供</p> <p>地域住民やみまもり相談室から地域に関する情報を収集し、「まちの情報シート」や「社会資源情報シート」として一覧化し、随時更新を行っている。これらの情報はセンターおよび相談室職員間で共有・活用し、来所相談や訪問活動を通じて地域住民に提供した。</p>		<p>2. バリアフリーマップの作成と活用</p> <p>高齢者や若年層の障害者、東京都作業療法士会、一般社団法人 WheeLog 等と連携し、車いす利用者による街歩きを実施。その結果をもとに、多目的トイレ、車いす対応の飲食店、休憩場所などの情報をまとめたバリアフリーマップを作成し、地域の飲食店や関係施設へ配布した。</p>		<p>3. ボッチャ交流の継続支援</p> <p>介護予防センター、墨田区スポーツ推進委員、プラットフォーム八広などの協力を得て、「ボッチャを楽しむ会」や「ボッチャ交流会」を継続的に開催した。近隣の児童館、重症心身障害者通所施設、就労継続支援B型施設、特別養護老人ホーム、有料老人ホームなどと交流を図るとともに、他地域のボッチャチームとの連携を進め、「すみだでユニバーサルなボッチャ大会」には高齢者チーム2組が出場した。これらの活動を通じて、高齢者の活動範囲の拡大、役割意識の向上、生活意欲の増進につながった。</p>		<p>4. 孤食・低栄養リスクへの対応</p> <p>地域ケア推進会議にて、東京都作業療法士会や東京都栄養士会の協力を得ながら、高齢者の共食による交流を目的とした「さあにぎやかに食事をいただく会」を企画・開催した。近隣の就労継続支援B型施設の利用者も同様の課題を抱えていたため参加してもらい、全3回実施した。男性限定で延べ26名が参加し、共食を通じた地域交流の場を提供した。</p>		<p>5. ふれあい交流会の開催</p> <p>プラットフォーム八広の協力を得て、「ふれあい交流会」（健康麻雀、囲碁、将棋など）を月2回、計24回開催し、延べ338名が参加した。男女ともに参加者が増加し、健康麻雀用の卓を1台追加するなど、参加者のニーズに応じた対応を行った。</p>	
交流・通いの場 60件（前年度 49件）													
<p>1. 地域情報の収集と提供</p> <p>地域住民やみまもり相談室から地域に関する情報を収集し、「まちの情報シート」や「社会資源情報シート」として一覧化し、随時更新を行っている。これらの情報はセンターおよび相談室職員間で共有・活用し、来所相談や訪問活動を通じて地域住民に提供した。</p>													
<p>2. バリアフリーマップの作成と活用</p> <p>高齢者や若年層の障害者、東京都作業療法士会、一般社団法人 WheeLog 等と連携し、車いす利用者による街歩きを実施。その結果をもとに、多目的トイレ、車いす対応の飲食店、休憩場所などの情報をまとめたバリアフリーマップを作成し、地域の飲食店や関係施設へ配布した。</p>													
<p>3. ボッチャ交流の継続支援</p> <p>介護予防センター、墨田区スポーツ推進委員、プラットフォーム八広などの協力を得て、「ボッチャを楽しむ会」や「ボッチャ交流会」を継続的に開催した。近隣の児童館、重症心身障害者通所施設、就労継続支援B型施設、特別養護老人ホーム、有料老人ホームなどと交流を図るとともに、他地域のボッチャチームとの連携を進め、「すみだでユニバーサルなボッチャ大会」には高齢者チーム2組が出場した。これらの活動を通じて、高齢者の活動範囲の拡大、役割意識の向上、生活意欲の増進につながった。</p>													
<p>4. 孤食・低栄養リスクへの対応</p> <p>地域ケア推進会議にて、東京都作業療法士会や東京都栄養士会の協力を得ながら、高齢者の共食による交流を目的とした「さあにぎやかに食事をいただく会」を企画・開催した。近隣の就労継続支援B型施設の利用者も同様の課題を抱えていたため参加してもらい、全3回実施した。男性限定で延べ26名が参加し、共食を通じた地域交流の場を提供した。</p>													
<p>5. ふれあい交流会の開催</p> <p>プラットフォーム八広の協力を得て、「ふれあい交流会」（健康麻雀、囲碁、将棋など）を月2回、計24回開催し、延べ338名が参加した。男女ともに参加者が増加し、健康麻雀用の卓を1台追加するなど、参加者のニーズに応じた対応を行った。</p>													

8 見守りネットワーク事業

6年度の取組の視点	○高齢者名簿等から対象を抽出しアウトリーチ訪問（高齢者宅への訪問支援）を600件行う。 ○安否確認の必要がある場合は、関係機関と連携し、早期の対応を行う。 ○アウトリーチ訪問では本人の状況だけではなく地域の活動状況や、地域活動のキーパーソンの発掘等を意識した聞き取りを行う。 ○地域との関係性が密である個人商店等を中心に、「みまもりだより」配布先の新規開拓を行う。	
結果	実態把握 629件（前年度 844件）	安否確認 7件（前年度 5件）
<p>1. 訪問実績と対象者の支援 年間アウトリーチ目標600件に対し、629件の訪問を実施し、実人数323名の状況把握を行った。訪問時には、対象者の生活状況を確認するとともに、当センターで実施している活動や地域の社会資源に関する情報を提供し、孤立防止や介護予防への支援につなげた。</p> <p>2. 安否確認の実施とネットワークの強化 安否確認を13件実施し、昨年度と比較して大幅に増加した。民生・児童委員や町会との連携強化を目的に、町会イベント等へ積極的に参加し、地域ネットワークの構築に努めた。</p> <p>3. 見守り協力員の増員と研修の再開 アウトリーチ訪問時の聞き取りを通じて、見守り協力員の登録を促進し、新たに2名の増員につなげた。また、新型コロナウイルスの影響により休止していた「見守り協力員勉強会」を再開し、協力員の役割理解の促進および交流の場の提供を図った。</p>		

<圏域別地域包括ケア計画の重点的な取組>

※取組ごとに記載している目指すべき姿の数字は、以下に記載した高齢者福祉総合計画・第9期介護保険事業計画における5つの目指すべき姿を示しており、このいずれかにつながる内容として設定している。

- 1 … 必要に応じて生活支援サービスなどを利用しつつ社会参加して支え合っている
- 2 … 多様な介護サービスを必要に応じて利用している
- 3 … 切れ目のない円滑な医療・介護連携により必要な在宅療養を受けている
- 4 … 身体状況の変化と本人の希望に応じて住まい方を選択している
- 5 … 地域における認知症に対する理解が進み、認知症の人が安心してその人らしく暮らしている

取組名 八広はなみずき応援団の育成	目指すべき姿：必要に応じて生活支援サービスなどを利用しつつ社会参加して支え合っている
背景となる現況・課題	令和4年度のニーズ調査の結果では物忘れ、うつの割合が他の圏域と比較して高かった。高齢者の中には仕事や趣味活動を通して様々な特技を持った方がいるため、個々の趣味や特技を活かして閉じこもり・うつを予防し、生きがいや満足感を感じられる仕組み作りが必要である。 また、医療や介護の専門職の中にも専門性を活かし医療・介護の情報を地域住民に伝えたいとの思いを持った方がいることを実態把握訪問や、専門職との連携の機会から把握した。 担当地域にお住いの高齢者の多様なニーズや課題に対応するためには、センター・相談室の職

		員だけではなく、地域住民や関係機関など多世代の協力・連携が不可欠である。
計画策定段階の前年度の事業実績		(計画期間の初年度のため令和6年度は記載なし)
第9期計画における目的		地域住民が特技や趣味活動を活かし閉じこもりやうつを予防し、自主グループや八広はなみずきの活動に協力することで、生きがいや満足感を感じることができる。
令和6年度の取組の指標と方向性	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○「八広はなみずき応援団」として活躍する地域住民が増える。 ○児童館や小学校、中学校などの関係機関と連携して多世代交流の取組を行い、地域における活動に参加する高齢者が増加する。
	投入資源	<ul style="list-style-type: none"> ○人材：地域住民、介護相談員、民生・児童委員、見守り協力員、介護予防サポーター、センター・相談室職員 ○実施場所：八広はなみずき活動スペース（多目的室1、2、ふれあい交流スペース、グリーンゾーン）、公園、民生・児童委員宅、介護保険施設、地域の交流スペース等 ○費用：応援団証やチラシ等の印刷費、飲食費（お茶・お菓子）
	活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ○実態把握訪問や地域住民からの情報収集等の機会を通じて、応援団を募集する。 ○募集した応援団と園芸活動、脳トレ教室のサポート、体操教室の講師等、活動のマッチングを行う。 ○児童館や小学校、中学校などの教育機関と連携し、園芸活動や手芸の会など子どもと高齢者が一緒に活動できる多世代交流の取り組みを実施する。
	成 果（アウトカム）を測る指	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民の応援団数（新規、継続加入者数、活動者数） ○地域住民の応援団への聞き取りやアンケートの実施により、活動への協力が生きが
		○専門職の応援団数（新規、継続加入者数、活動者数） ○専門職の応援団への聞き取りやアンケートの実施により、専門職としてのやりがいを感じることが

	標	いや、満足感に繋がっているかを確認する。	できているかを把握する。 ○専門職が講師となった講座の開催により、地域住民が医療・介護・福祉の情報を理解することができたかを聞き取りやアンケートから確認する。
実施結果	活動の実績 (アウトプット)	1. 地域住民による応援団は、前年度より18名増加し、計41名となった。 2. 応援団の皆さんには、調理師の資格を活かして会食会の食事作りに携わることや、園芸活動に協力するというように、それぞれがこれまでに培ってきた経験や知識を活かしながら、八広はなみずきの活動を支えて下さっている。	1. 専門職による応援団は、前年度より7名増加し、計25名となった。 2. 済生会向島病院の医師・栄養士・理学療法士などの専門職と連携し、「地域医療健康講座」を3回開催（延べ63名参加）。参加した高齢者に対して、フレイル予防の重要性についての理解促進を図った。
	成 果 (成 果指 標 を用いた目標 の達成 状況)	1. 地域住民の応援団への聞き取りの結果、「参加者に食事を作ることができ、活動に協力することにやりがいを感じている」との声や、「園芸活動に協力することで生きがいを感じている」といった意見が寄せられた。 2. 地域住民の応援団の中でボッチャの経験がある高齢者には、高齢者・障害者・小学生を対象に、ルールや投げ方などをわかりやすく説明していただいている。こうした応援団の協力もあり、ボッチャを通じた多世代交流の機会が広がった。	1. 専門職応援団への聞き取りの結果、「講師や活動への協力を通じて、専門職としてのやりがいを感じることができた」との意見や、「専門職としての充実感を得られた」といった声が寄せられた。 2. 専門職応援団が講師として関わった「認知症を知る会」や「精神疾患を知る会」では、参加した高齢者から「認知症や統合失調症などの詳しい症状や、必要な介護サービス、相談窓口を知ることができてよかった」との声が聞かれた。 3. 専門職応援団に講師を依頼し、吾嬬第二中学校では2年生110名を対象に福祉用具体験会を実施した。また、日本橋高校では1年生240名を対象に、認知症サポーター養成講座および福祉の仕事講座を開催した。これらの講座を通じて、若年層が高齢者の福祉用具や認知症への理解を深めるとともに、介護・福祉の仕事に関心を持つきっかけとなった。 4. 八広・東墨田地域を支える会の参加者や認知症当事者、オレンジカフェのボランティアとともに、地域プラザ吾嬬の里で開催された「オータムフェスタ」に参加した。墨田区が作成した「オレンジかるた」を活用し、多世代に認知症について理解を深めてもらう取り組みを行い、10代～80代の125名が参加した。そのうち70名に実施したアンケートでは、「かるたを通して楽しく認知症を学ぶことができた」とい

			った意見や、「認知症の人を助けたいと思った」といった前向きな意見が寄せられた。
備考			

取組名	いきいき活動プロジェクト	目指すべき姿：
		必要に応じて生活支援サービスなどを利用しつつ社会参加して支え合っている 地域における認知症に対する理解が進み、認知症の人が安心してその人らしく暮らしている
背景となる現況・課題	<p>令和4年度のニーズ調査の結果では、「物忘れが多いと感じている」と答えた人の割合が8圏域中最も高く、階段を手すりや壁をつたわらずに上っている、椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていると答えた割合が8圏域中最も低かった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により外出を自粛していた期間があったため、体力低下からフレイルのリスクが高まっているといった意見が地域ケア会議の参加者からも挙がっている。</p> <p>フレイルや物忘れの進行を予防するためには、高齢者が参加できる自主グループや八広はなみずきの活動など、外出や交流の機会をつくることが重要である。</p> <p>圏域内の自主グループ活動や八広はなみずきの活動に参加している高齢者の内、約8割が女性であり、男性の参加者が少ないため、参加者のニーズに合わせた様々な活動の場から選択できる仕組みを作る必要がある。</p> <p>また、介護サービスを利用されていた方の状態が改善され、介護サービスから自主グループに移行することが適切な場合でも、自主グループの情報が行き届いていない高齢者への周知が必要である。</p> <p>介護サービスの利用を終了した方が、自主グループなどの地域活動に参加できるように、常に新しい情報を発信していく必要がある。</p> <p>電動車椅子を利用している（利用を検討している）方が安心して外出するための情報が不足しているため、自由に外出することができない。地域全体のバリアフリー化を促進することで、介護予防・重度化防止につなげる。</p>	
計画策定段階の前年度の事業実績		(計画期間の初年度のため令和6年度は記載なし))
第9期計画における目的	高齢者が様々な活動に参加することでフレイル予防や認知機能の低下を遅らせる意識が高まる。	地域住民に認知症に関する正しい知識や支援のあり方、相談窓口が理解され、認知症の人を地域で支える意識が高まる。
の 令 取 和 組 の 年 度 6	目標	○活動の場の増加と関係者からの活動の情報提供を通じ、活動に参加する高齢者が増加する ○地域に認知症の正しい理解を持つ人や支える人が増える

投入資源	<ul style="list-style-type: none"> ○人材：八広はなみずき応援団、地域住民、介護相談員、民生・児童委員、見守り協力員、介護予防サポーター、地域リハビリテーション推進事業のメンバー、墨田区スポーツ推進委員、地域福祉プラットフォーム事業職員、センター・相談室職員 ○実施場所：八広はなみずき活動スペース（多目的室1、2、ふれあい交流スペース、グリーンゾーン）、民生・児童委員宅、介護保険施設、地域の交流スペース等 ○ネットワーク：東京都作業療法士会、医療機関、介護保険サービス事業所、墨田区社会福祉協議会、墨田区環境保全課、墨田区スポーツ振興課、教育機関（小学校・中学校、高校、児童館）、図書館 ○費用：園芸活動に必要な物品購入費、手品の会で使用する物品購入費、活動資料印刷費、飲食費（お茶・お菓子）等 	<ul style="list-style-type: none"> ○人材：オレンジカフェボランティア、八広はなみずき応援団、地域住民、介護相談員、民生・児童委員、介護予防サポーター、センター・相談室職員 ○実施場所：八広はなみずき活動スペース（多目的室1、2、ふれあい交流スペース、グリーンゾーン）、民生・児童委員宅、介護保険施設、地域の交流スペース等 ○ネットワーク：認知症疾患医療センター、医療機関、介護保険サービス事業所、教育機関（小学校・中学校、高等学校、児童館）、図書館、墨田区社会福祉協議会、すみだボランティアセンター等 ○費用：脳トレで使用する折り紙購入費、活動資料印刷費、飲食費（お茶・お菓子）等
活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ○自主グループの新規立ち上げ、継続支援 ○体力測定会や自主グループ連絡会の開催。 ○ボッチャや健康マージャンなど、男性高齢者のニーズに合い、参加しやすい通いの場を増やす。 ○八広はなみずきの自主グループ情報を地域住民に周知するため、センター・相談室からの働きかけのほか、民生委員や地域住民、ケアマネジャーからの情報提供が行われるよう、関係者に自主グループの情報を配布、周知する。 ○令和5年度に作成したバリアフリーマップの活用により、電動車椅子の利用者、地域住民、医療・介護等の関係者と車椅子の街歩きを実施する。 ○済生会向島病院との協働により、フレイル予防等に関する地域医療健康講座を開 	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症に関する正しい知識や相談窓口等を理解することができるよう、認知症疾患医療センター・医療機関、介護保険サービス事業所等との協働により、地域住民向け講座を開催する。 ○認知症の当事者やボランティアが参加できる活動の場の新規立ち上げ、継続支援

		催する。	
成 果 (アウトカム) を 測 る 指 標	<ul style="list-style-type: none"> ○自主グループ数（新規立ち上げ支援・継続支援） ○体力測定会の開催数、参加者へのアンケートや聞き取りにより、体力の維持・向上のモチベーションに繋がっているかを確認する ○自主グループ連絡会の開催数 ○男性の活動参加人数と前年度からの増加数の比較 ○自主グループ参加者や介護予防サポートー、八広はなみず応援団等にアンケートを実施し、生き甲斐や役割をもつことによって健康観が変化したなどの効果を確認する ○地域医療健康座の参加者への聞き取りやアンケートの実施によるフレイル予防の意識の変化を確認する ○車いす街歩き活動の参加者への聞き取りやアンケートの実施によりバリアフリーマップの効果を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民向け講座の開催数、参加者数 ○講座の参加者からの聞き取りやアンケートの実施により、認知症に対する理解が深まった人数を確認する ○認知症の当事者やボランティアが参加できる活動の場の新規立ち上げ数、継続支援数、活動の場への参加者数 ○当事者やボランティアからのアンケートの実施や聞き取りによる評価 	
実施結果	<p>活動の実績 (アウトプット)</p> <p>【高齢者の介護予防活動の参加促進】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新規グループの立ち上げ <ol style="list-style-type: none"> ① 「火曜 元気に歩けるストレッチ」： 11回開催、延べ 64 名参加 「土曜 元気に歩けるストレッチ」： 9回開催、延べ 50 名参加 介護予防センターによって立ち上げられたストレッチグループ。ヨガマットを敷き、床に横たわった状態でのストレッチを通じて柔軟性向上を目的としている。対象者は床からの立ち上がりに支障のない方で、毎回 6~7 名が参加している。 ② 「さあ にぎやかに食事をいただく会」： 3回開催、延べ 28 名参加（50 代～90 代） 男性高齢者の「孤食」問題に着目し、共 	<p>【認知症の理解促進に向けた取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症を知る会：1 回開催、13 名参加 ○精神疾患を知る会：1 回開催、18 名参加 ○専門職向け認知症普及啓発講座：1 回開催、21 名参加 ○認知症センター養成講座：14 回開催、延べ 419 名参加 若年層への理解促進を目的に、小・中・高校で講座を実施（八広小 5 年生 72 名、第三吾嬬小 6 年生 96 名、日本橋高校 1 年生 224 名） 日本橋高校では、認知症センター養成に加え「福祉の仕事講座」も実施し、福祉職への関心を高める機会とした。 	

	<p>食の効果を学ぶことを目的に開催。地域の障害者施設職員および 50 代の利用者も参加。</p> <p>第 1 回：食事内容を記録し、管理栄養士の指導のもと「食品多様性スコア」を記入。栄養バランスを考慮した食品の選び方を学習。</p> <p>第 2 回・第 3 回：調理が得意な男性を中心に調理を実施し、「作る楽しさ」や「共食の大切さ」を体験・共有。 参加者から継続希望の声があり、次年度は 4 回の開催を予定している。</p> <p>2. ボッチャ活動の推進</p> <p>① 「ボッチャを楽しむ会」：29 回開催、延べ 325 名参加 男性高齢者の社会参加促進を目的とし、男性限定で開催。参加希望者の増加に伴い、月 2 回から月 3 回へと開催回数を増やした。</p> <p>② 「ボッチャ交流会」：24 回開催、延べ 317 名参加 初心者向けの体験会や、男女混合チームによる対抗戦を実施。墨田区スポーツ振興課の支援を受け、社協職員と連携して安全管理および受付対応を強化。 また、八広はなみずき応援団の高齢者に、ルール説明や審判などの運営協力を依頼し、地域主体の運営体制を構築している。</p> <p>③ 地域間交流：八広はなみずき児童館（小学 1～3 年生）、障害福祉サービス事業所（すみだ晴山苑）、有料老人ホーム（すみだ明生苑）、ボッチャの会（大横川 GG）と交流試合を実施。参加者の増加に伴い、圏域内の高齢者施設（明生苑、吾亦紅）を新たな会場候</p>	<p>【認知症当事者やボランティアの活動支援】</p> <p>1. 墨田区北部オレンジカフェすみだ 12 回開催、延べ 264 名参加</p> <p>2. 墨田区認定オレンジカフェ支援 「SOMPO カフェ東墨田」「こんにゃく茶屋」の開催を周知し、当事者や家族の孤立防止、オレンジカフェ間の交流・情報交換の促進に継続的に取り組んだ。</p> <p>3. 地域コミュニティカフェ支援 「えがおの家」「むつみの家」など、認知症当事者が参加できる場の継続支援を実施。</p> <p>4. 墨田区チームオレンジ「みかたん」立ち上げ： オレンジカフェボランティアや当事者、関係機関と連携して立ち上げ。登録者 15 名（当事者 4 名）。音楽部・手芸部の立ち上げに向けた打ち合わせも継続中。</p>
--	--	---

	<p>補として調整を進めている。</p> <p>3. 自主グループの活動と課題</p> <p>現在、地域の自主グループは計 25（運動系：21、趣味系：1、脳トレ系：3）で活動中。</p> <p>自主グループ連絡会：1 回開催（代表 14 名、介護保険事業所職員 22 名参加）</p> <p>主な課題：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 会員数の減少 ② 運営メンバーの後継者不足 <p>対応策として、近隣介護サービス事業所のケアマネジャー・デイサービス職員へグループ活動を紹介。デイサービス職員からは、「卒業後の受け入れ体制の不足」が課題として挙げられたため、卒業を見据えたプランの検討を開始。</p> <p>また、会員減少により存続の危機にあったグループについては、センター掲示板での広報やチラシ配布を行い、会員数の増加を実現し、存続の危機を回避した。</p> <p>4. 車いすのまち歩きイベントの開催</p> <p>車いすユーザーの高齢者・地域住民・福祉用具事業者・東京都作業療法士会と連携し、バリアフリーマップを活用した散策イベントを実施。マップ掲載施設（駅・薬局・飲食店等）へ配布するため、3 グループに分かれて異なるルートで訪問。</p> <p>また、参加者には電動車いす・自走式車いすの体験機会を提供し、歩道の段差やマップ掲載の飲食店、多目的トイレの位置等について理解促進を図った。</p> <p>5. 介護予防体操 DVD の作成</p> <p>既存の DVD がマンネリ化し参加者が減少したことを受け、新しい DVD を民間事</p>
--	---

	<p>業者と協力して制作。参加者からは「運動強度が上がり、筋肉が鍛えられている感じる」など、好意的な意見が寄せられている。</p> <p>6. 介護予防活動の開催実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体力測定会：6回開催、14グループ、82名参加 ○いきいき脳トレ：12回開催、延べ156名参加（リハ専門職と協働） ○脳トレ折り紙広場：14回開催、延べ90名参加 ○脳トレ手品はなみずき：22回開催、延べ272名参加（地域住民が講師） ○あむともサークル：23回開催、延べ246名参加（自由な手芸制作） ○はなみずき体操（介護予防サポート指導）：64回開催、延べ555名参加 ○はなみずき体操DVD版（理学・作業療法士作成）：21回開催、延べ314名参加 ○元気に歩く体操（介護予防サポート指導）：64回開催、延べ523名参加 ○リフレッシュ体操：22回開催、延べ222名参加（DVDによるリズム体操） <p>7. 地域活動の情報提供</p> <p>センターで実施している全活動を、半年ごとのカレンダー形式でまとめ、職員や地域住民にとって「見やすく、使いやすい」形に工夫して作成。</p> <p>多職種連携の会合では、介護支援専門員にも配布し、利用者への地域活動の情報提供を促進した。</p>	
--	---	--

成 果 (成 果 指 標 を 用いた目 標 の 達 成 状 況)	<p>1. 活動参加者へのアンケート結果</p> <p>自主グループおよび八広はなみずきで開催している活動の参加者 75 名（70 代～90 代）を対象にアンケートを実施した。主な結果は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「活動後、つまずいたり転んだりすることが少なくなりましたか」という問い合わせに対し、「はい」と回答した方は 48%で、約半数が転倒の頻度が減ったと感じていた。 ② 「活動に参加してから、自宅でも運動するようになりましたか」という問い合わせに対し、67%が「はい」と回答し、活動をきっかけに日常生活でも運動習慣が広がっていることが分かった。 ③ 「活動に参加して、生活が健康的になつたと実感していますか」という問い合わせに対し、「はい」と答えた方は 64%で、活動が健康増進に寄与していることが確認された。 ④ 「活動を通じて人付き合いが増えたり、人間関係が広かりましたか」という問い合わせに対し、68%が「はい」と回答し、約 7 割の参加者が社会的つながりの広がりを実感していた。 ⑤ 「現在、生きがいや役割を感じていますか」という問い合わせに対し、「はい」と答えた方は 64%で、多くの高齢者が生活中にやりがいや役割を見出していることが分かった。 <p>2. ボッチャ活動の広がりと定着</p> <p>ボッチャ活動は、男性限定にとどまらず、女性にも楽しんでもらえるよう体制を整えた。墨田区スポーツ推進委員は第 2 木曜日のみ派遣されるため、第 4 木曜日には指導者・審判員が不在となることから、ルールに詳しい男性高齢者 3～4 名に審判や指導の支援を依頼した。この支援体制</p>	<p>1. 「認知症を知る会」の評価</p> <p>「認知症を知る会」参加者へのアンケートでは、回答者全員が「とても良かった」または「良かった」と評価した。具体的な意見としては、以下のような声が寄せられた。</p> <p>「受診の目安など、自分だけでは判断しにくいことについて、困った時にどこへ相談すればよいか分かり安心した」「認知症といつても人それぞれ症状が違い、対応が難しいと感じている。こうした会を定期的に開催してほしい」</p> <p>このように、地域住民の不安に応え、正しい知識を得る機会となった。</p>
--	--	--

	<p>が定着したことでの男女混合での交流が可能となり、参加者同士が和やかに楽しめる環境が整った。</p> <p>参加した男性高齢者からは、「ボッチャを通じて多世代との交流が生まれ、介護予防だけでなく社会貢献にもつながっている」といった喜びの声が寄せられた。このような体験を重ねる中で、墨田区ボッチャ大会への出場に向けて練習に意欲的に取り組む参加者も増えている。特に試合出場メンバー同士は顔を合わせる機会が増え、仲間意識が芽生え、連絡先を交換することや、区内のボッチャ体験会への参加、さらには一緒に食事や日帰り入浴を楽しむなど、交流の幅が広がっている。</p> <p>「こんな年齢になって友達ができるなんて嬉しい」との声もあり、高齢者が楽しみながらフレイル予防に取り組める活動として、ボッチャの継続と定着が実現できている。</p> <p>3. 自主グループへの支援と参加者の声</p> <p>既存の自主グループの課題に対し、リーダーや介護予防サポーターがいつでも相談できる体制を整え、定期的な話し合いを通じて解決に向けた側面的な支援を行った。</p> <p>また、自主グループ参加者に対してアンケートや聞き取りを実施したところ、以下のような声が寄せられた。</p> <p>「園芸活動に協力する中で、花や野菜、果物などの成長を見るのが樂しみです」</p> <p>「自主グループに参加することで仲間が増え、生活に樂しみが生まれました」</p> <p>「定期的に運動することで、健康になったと感じます」</p> <p>このように、自主グループ活動が心身の充実や地域での居場所づくりに貢献していることが伺えた。</p>	
--	---	--

備考		
----	--	--

取組名 八広はなみずき地域を支える多職種連携の会		目指すべき姿：切れ目のない円滑な医療・介護連携により必要な在宅療養を受けている
背景となる現況・課題	<p>医療や介護が必要になっても自宅で暮らし続けたいと考えている高齢者は多いが、そのためにどのような医療・介護サービスを受けることができるのかといった情報が行き届いていない高齢者がいるため、在宅医療や介護に関する情報を必要としている高齢者に届けていく必要がある。</p> <p>また、他の圏域と比較して居宅介護支援事業所が4か所、訪問看護事業所が1か所など介護サービス事業所の数が少ないため、圏域の医療・介護サービス事業所との連携が欠かせない。</p>	
計画策定段階の前年度の事業実績	(計画期間の初年度のため令和6年度は記載なし)	
第9期計画における目的	医療・介護の多職種との連携が深まり、地域住民が必要としている医療、介護サービスの情報が把握しやすくなることで、高齢者が要介護状態になっても地域で暮らし続けることができるという意識が広がる。	
令和6年度の取組の目標と方向性	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○多職種連携の会を通して医療・介護の顔の見える関係性が深まる。 ○多職種連携の会に参加した専門職が、医療・介護の情報を地域住民に発信する講座を実施することで、地域住民が医療・介護サービスに関する情報を把握しやすくなる。 ○八広はなみずき圏域の介護サービス事業所との顔の見える関係性の構築と定期的な情報交換の場である「八広・東墨田地域を支える会」を立ち上げる。
	投入資源	<ul style="list-style-type: none"> ○人材：医療・介護・福祉の専門職、八広はなみずき応援団、センター・相談室職員 ○実施場所：八広はなみずき活動スペース（多目的室1、2、ふれあい交流スペース、グリーンゾーン）、介護保険施設、地域の交流スペース等 ○ネットワーク：医療機関、介護保険サービス事業所等 ○費用：チラシや活動資料印刷費、飲食費（お茶・お菓子）等
	活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ○八広・東墨田地域を支える会を2か月に1回開催し、八広はなみずき圏域の介護保険サービス事業所との顔の見える関係性の構築や情報交換の場を作る。 ○MSW連絡会や認知症疾患医療センター、介護サービス事業所との協働により、多職種連携の会や事例検討会を開催する。 ○医療・介護・福祉の専門職との連携から八広はなみずき応援団を募集し、医療・介護・福祉に関する情報を地域住民に発信する講座を開催する。
	成 果 (アウトカム) を 測 る 指 標	<ul style="list-style-type: none"> ○多職種連携の会や事例検討会、八広・東墨田地域を支える会の開催数と参加人数 ○多職種連携の会や事例検討会、八広・東墨田地域を支える会に参加した専門職が講師となった、医療・介護に関する講座の開催数、講座参加者数を確認する ○講座参加者へのアンケートの実施や聞き取りにより、医療・介護・福祉に関する情報が把握できた人数を確認する
結果実施	活動の	【医療・介護に関する多職種連携・講座等の開催状況】

実績 (アウト プット)	<p>○多職種連携の会（事例検討を含む）年2回開催し、延べ75名が参加</p> <p>○八広・東墨田地域を支える会 年6回開催し、延べ42名が参加</p> <p>【医療・介護に関する講座の開催】</p> <p>多職種連携の会および「八広・東墨田地域を支える会」に参加している専門職が講師を務め、地域住民向けに以下の講座を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症を知る会：1回開催、13名参加 ○精神疾患を知る会：1回開催、18名参加 ○地域医療健康講座：3回開催、延べ63名参加 ○認知症普及啓発講座「認知症の方を在宅で支える」：1回開催、21名参加 <p>これらの取り組みを通じて、地域住民や関係機関に対し、医療・介護・福祉に関する理解を深める機会を提供し、支援体制の充実を図ることができた。</p>
成 果 (成 果 指 標 を 用いた目 標 の 達 成 状 況)	<p>【多職種連携の会 アンケート結果】</p> <p>○第1回アンケート結果 「参加してとても良かった」54%、「良かった」46%</p> <p>○第2回アンケート結果 「参加してとても良かった」66%、「良かった」34%</p> <p>具体的な意見としては、「他の専門職の意見を聞くことができ、意見交換ができる」と「事例を通して、さまざまな職種からそれぞれの視点で支援方法を提案してもらえたのが良かった」といった声が寄せられた。これらのことから、多職種間の情報共有が活発化し、地域全体の支援体制の強化につながったことが伺える。</p> <p>【八広はなみずき応援団への専門職の協力】</p> <p>多職種連携の会に参加した専門職に対し、「八広はなみずき応援団」への協力を依頼したところ、15名の専門職（在宅クリニック医師1名、看護師2名、介護支援専門員6名、医療相談員3名、在宅クリニック広報担当1名、訪問介護職員1名、サービス付き高齢者向け住宅施設長1名）から協力の申し出があった。</p> <p>活動内容としては、内科・精神科の訪問診療医による講義や、フレイル予防に関する講座への協力、園芸活動への参画などの意見が寄せられており、次年度以降に具体的な協力の調整を進める予定。</p> <p>【専門職による講師協力】</p> <p>1.住民向け講座での講師協力</p> <p>多職種連携の会参加者の中から「八広はなみずき応援団」として講師を募集し、「認知症を知る会」や「精神疾患を知る会」において協力を得ることができた。</p> <p>講座に参加した高齢者からは、「認知症や統合失調症などの病気の詳しい症状、必要な介護サービス、相談窓口について理解する機会となった」との声が寄せられた。</p>

	<p>2.高校生への福祉教育の実施</p> <p>多職種連携の会に参加した医療・介護職が講師となり、日本橋高校の1年生240名を対象に「認知症センター養成講座」および「福祉の仕事講座」を実施した。高校生に対し、認知症について正しい知識と理解を深めるとともに、病院の医療相談員、特別養護老人ホームの介護職員、栄養士、理学療法士、福祉用具専門員など、福祉分野の多様な職種について学び、福祉の仕事に対する関心を高める機会となった。</p> <p>3.中学生への福祉用具体験会の実施</p> <p>吾嬬第二中学校の2年生110名を対象とした人権学習「高齢者理解」では、八広はなみずきの取り組み紹介と福祉用具体験会を実施した。福祉用具事業所の協力により、中学生が電動車いす、歩行器、杖などの福祉用具を実際に体験し、高齢者の生活についての理解を深める機会となった。</p> <p>4.地域イベントでの認知症啓発活動</p> <p>「八広・東墨田地域を支える会」の参加者や認知症当事者、オレンジカフェのボランティアとともに、地域プラザ吾嬬の里で開催されたオータムフェスタに参加した。</p> <p>イベントでは、墨田区作成の「オレンジかるた」を用い、10代から80代までの125名が参加する中で、楽しみながら認知症について学ぶ機会を提供した。</p> <p>参加者のうち70名に実施したアンケートでは、「かるたを通じて楽しく認知症を学べた」「認知症の人を助けたいと思った」などの前向きな意見が寄せられ、地域住民の認知症への理解を深める一助となった。</p>
備考	